

日本発達心理学会 2018年度 国際ワークショップ・公開講演会 報告 公開講演会：「児童・生徒におけるアタッチメントのメンタルヘルスに及ぼす役割」

国際研究交流委員会 佐藤賢輔（共愛学園前橋国際大学）

日本発達心理学会では毎年、海外の著名な研究者を講師として招聘して国際ワークショップを開催し、合わせて一般の方々も対象とした公開講演会を開催してきました。2018年度の国際ワークショップは、講師にケント州立大学のキャサリン・カーズ（Kathryn A. Kerns）先生をお迎えし、「児童期の親子間のアタッチメント：発達上の重要性や評価方法、子どもの発達への影響」と題して、2018年8月31日（金）～9月2日（日）の3日間、お茶の水女子大学で開催されました。また、国際ワークショップ3日目の午後には、同大学にて「児童・生徒におけるアタッチメントのメンタルヘルスに及ぼす役割」と題して公開講演会が行われました。

今回講演をしてくださったカーズ先生は、これまで研究の少なかった児童期のアタッチメントについての研究に取り組み、国際的な評価を得ています。今回の講演会は、児童期のアタッチメントの評価方法や、児童期のアタッチメントとメンタルヘルスとの関連について知る絶好の機会となりまときした。講演会では、質疑応答の時間も多く設けられ、カーズ先生と参加者の間で非常に活発な議論が行われました。

なお、本講演会は、臨床発達心理士、学校心理士、および臨床心理士の資格更新ポイント研修会として認定され、それぞれ71名、6名、14名の先生が、本講演会への参加により各資格更新ポイントを取得されました。

この公開講演会は、共催機関としての（公財）発達科学研究教育センター（CODER）の助成金支援によって実現したものです。この場を借りまして、本学会の公開講演会に温かいご支援を下さった発達科学研究教育センターに厚くお礼申し上げます。

また、本講演会、ワークショップのホストを務めてくださった帝京大学の近藤清美先生をはじめ、お力添えを賜りました関係各位に改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。